



表向きは「ノーボエ・ブレーミャ」の特派員(上) 下は昭和52年テレビのインタビューに応じた時のもの。左が夫人、右の女性は通訳 PHOTO スポニチ・テレビ・ニュース社

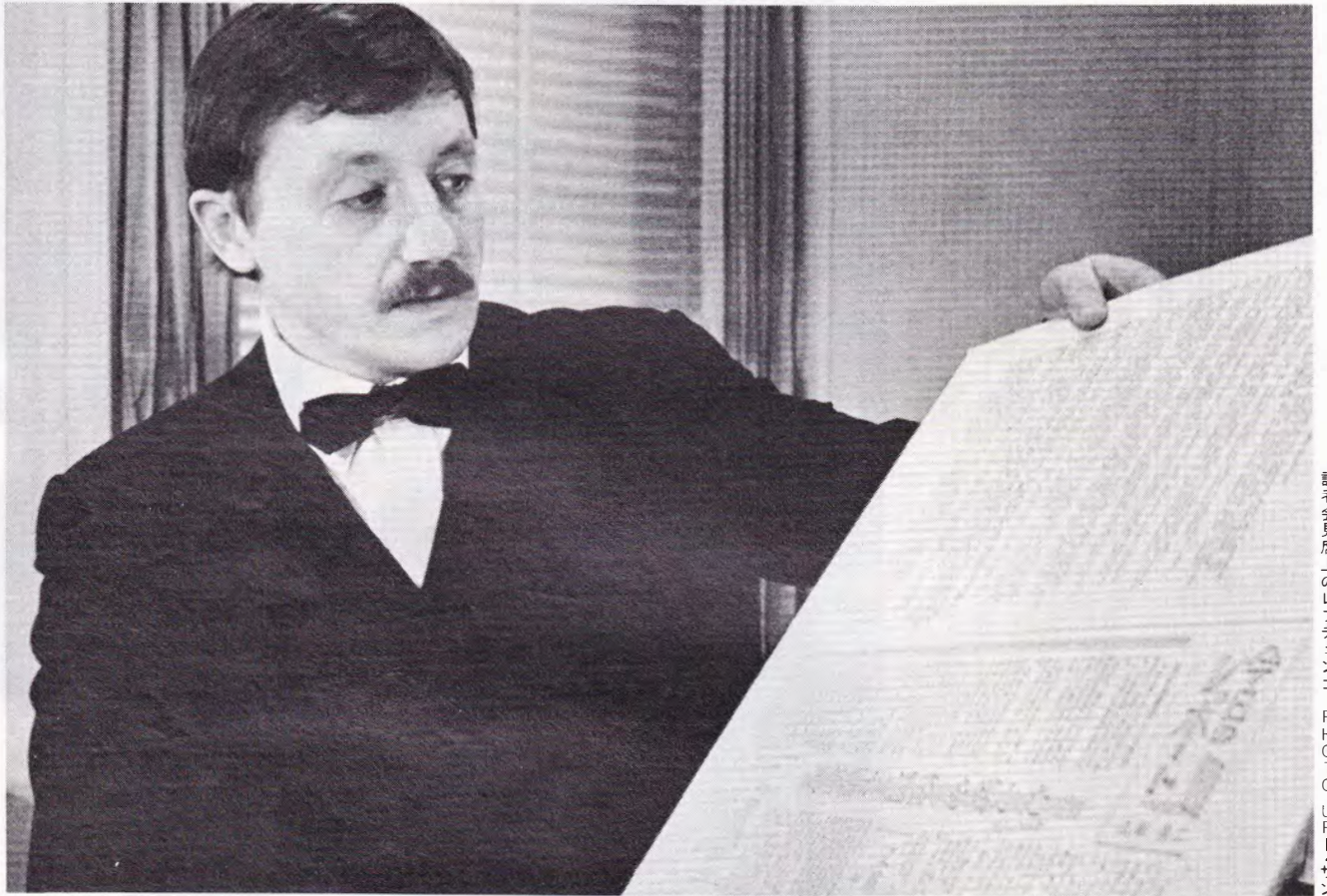


KGB「対日工作」の虚実

レフチェンコ証言の読みとタイミング

スパイは俗っぽくて神秘的な職業だ。その行動は狡猾無比にして妙に幼稚なところもある。虚実入り乱れ、虚々相戦い、実は何が何だかよくわからない世界。ここにそのミステリアスな衣をちよつぱりまくりあげてみせた口髭の男がいる。スタニスラフ・アレクサンドルビッチ・レフチェンコ(41)。このソ連KGB(国家保安委員会)の元少佐は、1975年2月、雑誌「ノーボエ・ブレミヤ」東京特派員の肩書で来日し、79年10月アメリカに亡命するまでの4年余りをソ連側スパイとして活動した。その活動内容の証言がこの9日発表されたのである。まくりあげられた衣の向うで色んな人物たちが見え隠れしている……。

レフチェンコが日本人エージェント、つまりスパイ協力者として挙げているのは、4人の著名なジャーナリスト、元閣僚、社会党幹部、日ソ友好議員連盟関係者、中国研究者などである。名指されていないが、エージェントとして取り沙汰されているのは以下のような方々だ。石田博英・日ソ友好議員連盟会長、赤城宗徳・日ソ親善協会会長、田中六助・自民党政調会長、阿部文男代議士、社会党では勝間田清一、横山利秋らの諸先生。他に中国研究者の中嶋嶺雄・東京外大教授山根卓二・サンケイ新聞編集局長など。勿論この中にはとんだトバッチリをうけた方も多いだろう。レフチェンコの持ちこんだニセの「周恩来の遺書」を記事にした山根氏は、遺書の信憑性については記事中で否定的に扱ったと断わった上で「レフチェンコと会ったのは計6回位。しかしボクが彼に意図的に情報を流した



記者会見席上のレフチェンコ PHOTO UPI・サン

り、また誘導されたこともない」と語る。阿部文男代議士は「レフチェンコなんて聞いたことも見たこともない」といい、11月25日から4日間ソ連に行ってきたばかりの横山利秋・日ソ親善協会理事長も「名前すら聞いたことがない」とすげない返事。取り沙汰された他の諸氏の反応も似たりよったり。レフチェンコなんてホントにダーレも知らないのか？ スパイとして有能だったのか、無能だったのか？ エージェントとして取り沙汰されていない日本人にきいてみた。

「人なつこくて、活発で、生活をエンジョイしてる風だった」とその印象を語るのは勝見章さん。勝見さんは昭和52年当時、スポニチ・テレビ・ニュース社のディレクターとして、「外国人の日本ライフ」なるTBSテレビの連続番組を担当し、2月6日放送分の「歩けば楽し」でレフチェンコ取材したのだ。勿論スパイとしてでなく「ノーボエ・ブレミヤ」東京特派員としての彼を。「住いは確か渋谷の3LDKのマンション。その4畳半が彼の仕事部屋だった。机とタイプライターがあり、しかし本は極端に少なかった。日本語の本が10冊ほどで、うち1冊が『日本社会党史』だったように思う。リビングの壁には『大内兵衛からもらった』と称する書がかかっていた」

レフチェンコを知る人は意外なところにもいる。東京・赤坂のとある電機店の主人。この店は看板にTAX FREEをうたっている。免税店だから客は外人が圧倒的に多く、米、中の大使館関係者も来るけれど客の7、8割はソ連人だ。レフチェンコも「宮永スパイ事件」のコズロフ大佐もよくやって来たという。主人の証言



アメリカナイズされた口髭の元スパイ PHOTO WWP

「レフチェンコは夫人同伴で来て、ラジカセやビデオを買っていった。支払いは日本円の現金です。多い時は財布に1万円札が20枚位入ってましたね。彼は英語と日本語の両方を流暢に喋るから、これはそのスジ(KGB)だなんてすぐ分かった。ある時、来日中のカーター米大統領の随行シークレット・サービスの連中と店で顔を合せたレフチェンコが彼らと英語で親しげに話していた。あれ、おかしいなと感じたが、その4カ月後に彼は亡命したんで……。店には勿論、日本の

公安の人も来る。レフチェンコも米日当初は2、3人の公安がマークしてました。でも亡命する頃はマークがなかった」
電機屋の主人にすぐKGBと見破られるようでは、レフチェンコ元少佐殿、さしたる大物スパイではあらせられなかった可能性が強い。しかし小物スパイゆえに逆にチョコマカと動き回り、たとえば電車の中であなたと隣り合せになり、あるいは町の路上であなたと擦れちがったことだってあるかもしれないのだ。亡命後は口髭なんかはやかしているけれど、

滞日中はご覧のような風貌だった。読者諸兄諸姉、なかなしくエージェントと取り沙汰された諸氏、この顔にやっぱり見覚えはありませんか？
今回のレフチェンコ証言の真偽は分らない。ブレジネフ死して、KGB出身のアンドロポフがソ連の指導者になって以来、KGBはとかく世界の注目の的だ。現に先だって、去年5月のローマ法王暗殺未遂事件にからみ、KGBの指令をうけたブルガリアの工作員が逮捕されている (本誌 *mystery* 欄参照)。レフチ

エンコ証言はタイミングがよすぎるのだ。もつとも火のないところに……の喩えは馬鹿にできないし、KGBの日本人エージェントが存在しないとは到底考えられない。ただ元スパイがオーイと呼びかけたって、ここだよと答える現役エージェントなんている訳がない。
レフチェンコは、今回、日本人記者団に「日本に良くない事をしたのは残念だ。しかし人生にはパドックスがある」と語ったとか。スパイはパドキシカルな職業なのである。

FOCUS

フォーカス

レフチェンコ証言
「対日謀略」の虚実

12月24・31日合併号
150円

